

平成30年度 学校評価総括表

奈良県立畝傍高等学校（全日制）

教育目標	日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者として必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成を目指す。	総合評価
運営方針	スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業の目的を踏まえ、使命感、実行力を持ち、奈良から世界へ発信できるリーダーの育成を目指し、知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的で活力ある生徒を育成する。	

平成29年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	B
<p>○SGHに関係する学校設定教科や課題研究の取組によって、生徒の課題発見、設定に関わる力、表現する力に向上が見られた。また、「未来創造会議」等における生徒の発表内容も充実したものとなった。</p> <p>○第2学年生徒が海外研修を体験するとともに、アドバンストコースの生徒が海外交流校を訪問することで、海外に目を向けるとともに様々な社会問題に課題認識をもつなど、生徒の意識変化が認められた。</p> <p>○SGH校としてカリキュラム研究を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るとともに、ポストSGHを見据えたカリキュラムの在り方についての研究に取り組む。</p> <p>○生徒が主体性を持ち探究的な学びをより進めていけるように、学習到達度を示す評価基準の研究を行い授業等への導入を図る。</p>	<p>(Communicate)</p> <p>自己理解や他者との関わりをとおして、コミュニケーション力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己についての省察や他者を思う心を養い、自分の考えを正確に伝える力を育成する。 学校行事などの諸活動をとおして、様々な意見や考え方に触れ、合意形成を図ったり意志決定したりする能力を高める。 	
	<p>(Collaborate)</p> <p>社会の一員としての自覚を促し、他者と協働する能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。 様々な教育活動をとおして、自他の個性を理解して尊重し、信頼し合える人間関係が構築できるよう支援する。 地域や他の教育機関等との連携を推進する。 	
	<p>(Consider)</p> <p>探究的な学びをとおして、主体的に物事を考える習慣や論理的な思考力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開や研修会などを積極的に行い、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）が各教科で実践されるように指導方法の工夫改善に取り組む。 課題研究等をとおして学習意欲の向上を目指し、思考力、判断力、表現力を育成する指導を実践する。 	
	<p>(Challenge)</p> <p>自分の夢や将来を見据えた進路を設計する力を養い、その実現に向けて弛まず挑戦する強い意志を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自らの在り方や生き方を深く考えさせ、将来を見据えた進路希望がもてるよう、各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。 自己実現に向けて自ら必要な情報の収集する力を養い、様々な角度から適切な指導が行える体制づくりを図る。 	

総務企画	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A～E)		成果と課題	改善方法等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方法
	教育体制の刷新に伴う整備と教職員の指導力向上に取り組む。	SGHの取組や各種模試・調査等の分析をとおして、充実した教育体制を構築すると共に進学指導やキャリア教育のより効果的な改善に資するための提案に努める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各種アンケート等を定期的実施し、校内外からの意見をいただき整理することができた。今後の改善に生かしていく取組が十分でなかったように感じる。少しではあるが学期末の試験前において授業時間を確保することができた。 授業アンケートでは趣旨を理解させるため質問項目を変え、回答しやすいようにした。また、自由記述に対するの責任感を促す目的で記名をさせた。 学校説明会では参加者が昨年より増加した。スムーズに運営ができた。生徒中心の運営に対して良い評価をいただいた。 	
畝傍高校の特徴が際立つ広報活動と募集活動を推進する。	生徒会の協力も得ながら中学生対象の学校説明会を生徒主体で開催し、また、校外で実施される説明会等へも積極的に参加する。	A	A				

SGH企画	使命感と実行力をもつリーダーの育成を目的とし、課題解決のために自主的に行動を起こすことができる生徒の育成を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関する取組は、各教科内で選択と集中を進め、多様な取組を計画的に実施することができた。その結果、生徒にとっても意義ある学習活動を推進することができた。 ・教科間連携については、事業4年目から見直しを始めた結果、今ある連携を充実させていくことに注力した。指導と評価の計画については、次年度以降の枠組みとしてテストすることまではできたが、最終的に実践するには至らなかった。 ・各発表会、交流事業等については、関係教員のみならず様々な先生方の支援により、計画通り充実した取組を進めることができた。また、留学についても、生徒への周知、留学生の受け入れなど、過去から課題としてきたことによく対応し、新しい枠組みを策定していくことができた。しかし、一連の取組や、ことに留学生への対応において一部教科や担当に大きな負担があったり連携がスムーズでなかったりするなど、改善すべき課題も明らかになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科間連携については、「各教科の役割を明らかにすることで、教科の主体性でなく学校としての方針を決めていく」「実績と意義のある連携を図る」「課題研究を核として意識統一を図る」の三点において、次年度以降の改善課題としている。 ・留学生への対応については、今年度各教科で広く負担する形を試行したので、この枠組みを利用して協議しながら、一部の負担にならない形で、特に課題研究等に留学生が関係できる形を模索していく。 ・一部生徒・一部教員の取組とならないよう、適切な役割分担を一層推進すると共に、ワークショップ型の校内研修、外部コンテスト等への様々な教員の参加等を通して、目標や成果への理解や意識を高める。 ・事業の終了・継続がはっきりしない中ではあるが、学習活動は大きく変わるわけではないので、いま成果の上がっている取組に継続感をもって取り組んでいく。 	概ね良好である。
	海外に目を向け、将来的に留学や国際的な活躍の展望をもつ生徒の育成を図る。	C	B			
	教科・科目での指導をはじめ、未来創造会議やSGH研究発表会、交流事業や留学支援、キャリア指導などSGHの事業に全職員が取り組めるよう適切に調整する。	B	B			
教務	学校の教育活動が円滑に運営されるよう、調整を行う。	B	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・教務に関する校内規程の運用の安定化を図った。観点別評価に関する取組を推進した。ただし、実際の運用に関しては課題が残っている。 ・定期考査の日程、土曜授業及び総合的な学習の時間の実施計画等を中心に学校行事全般にわたり、各分掌・各学年と連携して検討を進めることができた。 ・特別時間割をはじめ、学校行事やLHR等に関係する時間割変更を授業時間の確保を考慮した形で行えた。曜日による授業数の差をすべて調整しきれなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各曜日の授業時間のばらつきを調整するため、定期考査ごとに曜日変更を伴う時間割の振替を来年度においても実施する。 ・校務支援システムが導入されることから、観点別評価の取組を推進する。生徒一人ひとりの学習環境の変化などに対応できるように、教務に関する校内規程の問題点等の整理を進める。 	概ね良好である。
	学習指導要領の趣旨に沿い、現行の教育課程の問題点等を検討・整理し、生徒の実態や進路希望等に対応する教育課程の編成に努める。また、SGH後の教育課程について次期学習指導要領を見据えながら検討する。	A	B			
	特色ある学校づくりをめざし、教育活動の工夫改善を行う。	B	B			
	SGH研究開発に係るカリキュラム研究を継続的に進めるとともに、アクティブラーニングに関する授業改善に向けた研修等の推進を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成について、生徒各自の学習環境の変化や進路希望の多様化に対応できるように、各教科において検討を進めることができた。 ・SGH事業後をとらえた教育課程の編成ができた。新学習指導要領の対応も見据え、今後さらに改善を図りたい。 ・SGH研究開発に係るアクティブラーニングに対する研修を企画・実施することができた。 ・公開授業の期間等を調整し、各教科における授業研究の推進を図っていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業内容の更新を促していく。また、類型の特色を生かすこと、大学入試の変更点を考慮することなどについて検討を進めていく。 ・課題研究の研究開発の取組が、効果的かつ組織的に進むことができるように教科間の密接な連携を図る。また、アクティブラーニングに対応する授業改善を進めていくため、教科横断的な授業研究に取り組む。 	

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	継続的な服装・頭髪・遅刻指導等とおして、規範意識を高める。遅刻カードを有効に活用し不注意による遅刻を防ぐ。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣は、ほとんどの生徒は確立しているが、遅刻を繰り返したり生活習慣の乱れのある生徒がいる。また、スマートフォンの不適切な使用によるトラブルや依存症的な問題がある。保護者・関係機関とも連携し対策を考えたい。 持ち物の管理意識が低く、落とし物の届けや問い合わせが絶えない。盗難の事象が発生していない事が幸いである。 通学マナーは、課題が多い。ぎりぎりまで登校してくる自転車通学生に苦情や事故が多発している。 生活委員による挨拶運動は、毎年改善しながら活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての学習活動を通じて「生徒の規範意識や人権感覚を高め、行動に責任を持たせる」ことが改善の基本である。 スマートフォンの利用については、マナーを守り適切な使用方法について考えさせたい。また、通学路の安全対策は、それらの危険性を繰り返し訴え安全意識を持たせたい。 いじめ問題については、一人一人の生徒の状況を把握し、些細なことも見逃さず、情報共有を図りながら組織で対応することが求められている。いじめを含めた問題行動の未然防止と、問題事象発生時の組織対応を整備する。 	概ね良好である。
	貴重品の管理	教室・部室・個人ロッカーなどの施錠を徹底させ、自己管理意識を高めさせる。	B				
	通学マナーの向上	登下校指導を通じて交通マナーを遵守させる。自転車の雨合羽着用など事故防止対策を推進する。	B				
	活気ある学校づくり	生活委員による挨拶運動を広げ、活気ある学校づくりを目指す。	A				
生徒会指導	生徒による自主的・創造的な生徒会活動を推進する。	生徒総会や様々な生徒会行事について、自治の精神に基づき、役員が中心となり、生徒主体の活動となるように指導する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員が一生懸命に活動し、様々な行事を無事に終えることができた。特に畝高祭は前年度の反省を生かしながら進化している。しかし、役員は開会・閉会行事の企画などで多忙をきわめ、我々の目が行きとどかなかった点も多い。多くの生徒にとって、すばらしい文化祭を作り上げたという達成感が愛校心を高め、素晴らしい思い出を刻むことにつながると考えるので、学校の活性化を図る上で畝高祭の意義は大きいと考える。次年度はその内容など大きく変化するので、しっかりと計画と準備が必要である。 まだまだ、生徒は自治についての自覚があまりなく自分自身が生徒会の一員であり、学校を変えていく主体であるという自覚に乏しい。 生徒会役員に仕事が集中し、彼らへの信頼は大きい反面、彼らを支える生徒集団、組織が必要な状況である。 多くの生徒が主体的にボランティア活動に取り組もうという姿勢に乏しい。真面目で、決められたことは責任感をもって取り組むが、様々な問題を自分たちの問題と考えられるように、関心や気付きを増やし、いろいろな場面で生徒個々の意識を高める工夫が必要と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員以外の生徒が前面に出る活動を増やす。生徒会役員の自主性を尊重しながら、一人一人の状況にも目を配り、しっかりと生徒会役員を支える体制を作る。特に畝高祭で役員の負担を軽減するため、生徒会サポーターズや実行委員会の役割を検討し、より多くの生徒が畝高祭を担うよう計画する。 多くの生徒にとって、生徒会が自分たちの活動であることを感じるようなはたらきかけを進める一方で、生徒会活動を生徒に伝える生徒会新聞を作成するなどの工夫をする。 ここ数年立候補者が集まらない役員選挙についても、来年度から生徒数が減少することも考え、こちらから積極的に役員候補の発掘をすすめる。 行事や目的ごとに自主参加型の委員会を設け、生徒が様々な問題に取り組む機会を増やすことで、様々な問題点を共有し、気づきを促して意識を高めていく。 	概ね良好である。
		通学路清掃や募金活動に多くの生徒が参加するよう指導し、生徒が社会参加について自ら考え、行動する資質を養い、社会性や責任感、ボランティア精神を育むように指導する。	C				
	生徒の意識を高める中で、互いに信頼しあえる学校づくり、さらなる学校の活性化を推進する。	畝高祭の企画を進化発展させると同時に、生徒全員が協力して魅力的な文化祭を成功・完成できるように指導する。	A				
			B				

進路指導	進路を自主的に選択・決定できる力を育成する。	「先輩の話を聞く会」や進路講演会、大学見学会などの開催、職場体験事業等の紹介などを通して、生徒の進路選択の意識向上やキャリア意識の醸成を図る。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学見学会では留学生との交流に向けて事前学習に取り組み、昨年より充実した内容となった。 「先輩の話を聞く会」では多くの卒業生から在校生に話をしてもらうことができた。 キャリア教育を意識し、ホームルームの充実を図りながら、進路講演会や集会等を通して生徒の進路実現に向けて取り組んだ。 職場体験事業でも看護体験等の他に、県立教育研究所がとりまとめる休業中の職場体験事業にも参加をした。 高大連携の取組では希望者に対して大学の講義を体験させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会、HRおよび大学見学会等がさらに生徒のキャリア意識の育成や進路保障につながるよう、実施時期や内容の検討を行う。 新入試制度の情報が分かり次第、教員・生徒・保護者等に提供し、高大連携・高大接続の意識の醸成と、生徒が社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けさせる。 	概ね良好である。
		各学年と連携し、進路ホームルームや総合的な学習の時間の充実に努め、生徒の進路実現に役立てる。	B					
進路目標達成に向けて支援を行う。	生徒の進路目標実現のため、生徒及び保護者へのさまざまな情報の発信に努める。		B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で保護者対象の講演会を適切な時期に実施することができた。1年生保護者対象の類型登録説明会の際には、大学進学後を見据えた進路実現のための講演会を実施した。 土曜講座は、2年生は授業日ではない土曜日の実施とする一方、3年生は連続で行うことの効率性を優先して、授業日も含めて連続週で実施した。 校内外の模試を数多く実施したが、分析結果を踏まえて生徒に還元・指導を行う部分が十分ではなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内実力テストの発見的解消と校外模試の精選を行った上で、各教科の模試に対する分析をさらに充実させ、分析結果を生徒に還元・指導できる講座を実施する。 夏期講習では基礎学力の充実だけではなく、生徒の得意科目をさらに伸ばせる講座などを開講し、教員・生徒ともに意欲が高まる充実した講座の開講を図りたい。 	
		進路目標達成に向けた学力の確立を目指して、校内実力テストや各期講習・土曜講座等の充実を図る。	B					
教育相談	生徒の「心の健康」の増進を図る。	電子掲示板を活用し、「心の健康」に関する情報を毎月発信する。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 掲示板等でカウンセリングの予定やメッセージを発信した。カウンセラーさんとの連絡を密にとりながら活動を行った。 カウンセラーさんのご好意で、毎回時間外に、20時過ぎまで実施していただいているが、それでも、カウンセリングは常に1ヶ月待ちの状況である。保護者の継続的な相談者も増加傾向にある。外部機関への振り分けを行った事例もあったが、なかなか追いつかない状況である。カウンセリングルームも実質1部屋の状況であり、環境が整った部屋の確保も課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生方の適切なご対応に助けられることが多いが、生徒の変化に迅速に対応するために、不登校傾向が表れた段階で、担任の先生方からご連絡をいただき、初期段階でのケース会議を増やしていく必要がある。重篤化する前に先生方のご理解、サポートをいただきながら早め早めの対応が重要となっている。 	概ね良好である。
		スクールカウンセラーとの連絡・情報交換を適切に遂行し、相談活動を円滑に行う。	B					
		外部の相談機関との迅速な連携に努める。	B					
教職員向けに、育相談に関する研修の機会を提供する。	年3回の職員研修を企画し、生徒理解を深める一助とする。		A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修では、先生方やカウンセラーさん等のご協力をいただきながら、配慮を要する生徒の状況について、共通理解を深める取組を行った。 事例研究については、具体的な取組の実践を学ぶことができた。時間の制限もあるが、さらに一人一人の状況について深く理解できるような取組をしていく必要がある。 外部機関の研修にも、多くの先生方にご参加いただければと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの先生方のご意見を伺えるように配慮しながら、生徒の状況の把握と、先生方の取組の成果の情報共有ができるような研修を進めていきたい。特に支援を要する生徒については、早めの情報交換を密にして対応していきたい。 外部機関の研修講座など、多岐に渡るテーマについて、多くの先生方に参加いただけるよう迅速に情報伝達をしていきたい。 	
		外部機関の研修事業の情報を、遅滞なく伝達する。	B					

人権教育	生徒の人権意識をより確かなものとするとともに、主体的に取り組む姿勢や実践力を身に付けさせる。	毎月の「人権を確かめあう日」の取組を確実に実施し、生徒が社会や日常生活における人権問題に関心をもち主体的に取り組めるよう、内容の充実を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を確かめあう日」の教材作りに生徒が関わることで、生徒がより主体的に取り組めるものになりつつある。その点は大きな成果であり、次年度も継続していきたい。 ・今後、HRの内容との関連も視野に入れたり、10分間で読むのに適切な分量・内容も考慮したりしながら記事の選定をしていきたい。 ・人権教育HRでは「デートDV」や「多様な性について学ぶ」など社会の変化に対応した新しい人権課題も取り入れつつ、生徒の主体的な学びに繋がるよう、内容や方法をさらに検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を確かめあう日」については、生徒が関わる機会を継続して、生徒自身が人権課題により関心をもち主体的に取り組む機会としていきたい。 ・先生方にアンケートをとって内容や展開方法の充実を目指す。 ・人権教育HRについては、事前事後研修の一層の充実を図り、先生方の意見や提案、生徒の感想等を踏まえ、内容・方法を各学年の先生方と共に検討していくものとする。 	概ね良好である。		
		人権教育HRでは、生徒が主体的に取り組むことができるような内容及び展開方法を考え工夫する。	B						
	人権教育行事に取り組むとともに、解放研活動の再建を図る。	人権講演会及び人権芸術鑑賞会の内容を充実させ、事前事後指導の手立てを設けることで、得られたものを確かなものとする。	A	B		B		<ul style="list-style-type: none"> ・人権芸術鑑賞会では演劇を鑑賞し、生徒の感性に訴え、感動体験と共に「人権や生命」について考える機会を持たた。生徒・保護者からの反響も大きかった。 ・各種人権講演会においては専門の講師による具体的事例の説明やワークショップなどをとおして生徒たちは様々な人権課題に対する理解を深めることができた。 ・解放研活動については現在部員が在籍せず、活動ができていない。高解研での行事を各クラスで案内するなど呼びかけているが、今後は勉強会や交流会を実施するなどして、活性化を図る努力をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権芸術鑑賞会においては、作品の選定が非常に重要である。来年度は映画の年であるが、部内だけでなく、広く先生方や生徒たちの意見も参考にしながら選考を行っていきたい。 ・資料を事前に読ませて意識付けをしたり、生徒の感想をフィードバックしたりすることで、事前事後指導の充実を図っていく。 ・生徒たちのよりよい人間関係の構築については、他の分掌や学年との連携を密にする。 ・解放研活動については、人権芸術鑑賞会やHRの後に交流会をもつなどの工夫をしていきたい。
		生徒が互いに支え合い、信頼し合える人間関係の構築に努めるとともに、解放研活動の充実を図り、機関紙『鉄鎖』を発行する。	C						
	教職員自らの人権意識を高め、保護者との連携を深める。	生徒の課題の把握と理解に即した研修を計画し、全体研修を年2回以上実施する。	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を年2回実施した。特に講師を招いての研修では「親として、教員として～在日外国人教育の現状と課題」というテーマで話を聴き、理解を深めることができた。ただ、1回目の研修は教育相談部との合同研修であり、十分な時間を確保することが難しい。この合同研修以外に年2回実施することも今後検討していきたい。 ・校外での研修や他校種との実践交流の機会を学校全体で確保する体制が必要と思われる。 ・今年度の本校人権教育の個々の取組については、「熱れ」にまとめることができた。「熱れ」の発行は、本校の人権教育を保護者に伝える良い機会になっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修については、具体的に何が求められているのかを把握して、今後もニーズに合わせた内容や講師選定を目指す。 ・これまでの人権教育が培ってきたものを若い先生方に伝えていく機会を持っていきたい。 ・「人権教育はHRだけでなくあらゆる教育活動の場面で実践されるべきものだ」という認識をもち、私たち自身が日々自分の人権意識を問い直し高めていくためにも、職員研修のさらなる充実を目指したい。 	
		保護者向け「熱れ」を年4回発行し、生徒の状況を知らせるとともに保護者への啓発紙とする。	A						

保健体育	健康の実態把握及び保持増進のための啓発に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・つ歯の保有率が少なく、また、治療勧告書を配付すると、すぐに医療機関で検診を受ける等、生徒や保護者ともに健康への意識は高い。しかし、治療を受けていない生徒もいるので、継続的に声をかけていきたい。 ・保健室利用者に対して担任と連携し、また、保健室利用の多い生徒や、心がしんどい生徒に対しては、スクールカウンセラーとも連携をとった。 ・保健委員会活動として、保健委員と部活動代表者に対して、榎原消防署から救急救命士に来ていただき、救急法講習会をおこなった。生徒は、熱心に受講していた。参加人数を増やしてほしいという部活動もあったので、来年度は、人数を増やせるように調整したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任やスクールカウンセラー等と連携し、心身ともに健康な高校生活を過ごせるように支援したい。 ・保健だよりの発行や電子掲示板の掲載を増やし、健康の保持増進のため、情報を提供したい。 ・職員を対象にしたアレルギーに対応するDVDを視聴する等、緊急時に対応できるように定期的に講習会を実施していきたい。 	概ね良好である。
	健康診断を円滑に実施し、すみやかな医療勧告を実施する。	A				
	保健室利用者について保健室利用カード等を活用し、担任等と連絡を密にする。	B				
体育関連行事への意欲的な参加と安全に配慮した運営をする。	保健体育の授業時の指導を通じて、記録等に関する生徒の意欲や向上心を高揚させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べるとスポーツテストの結果は若干向上したと思われる。A判定の人数は1年生66名、2年生91名、3年生82名と1・2学年は昨年より人数が増えているが3年生が昨年より10名減っている。全体では14名増えている。昨年までは学年があがるにつれて増えていたが今年は例年とは違う結果であった。 ・体育的行事では運動部員を中心に運営活動ができていたが他の生徒の協力する姿勢の育成も求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候によっては測定出来ない種目もあり予定通り記録を測定出来なかったりする場合があるが出来るだけベストコンディションで測定したり同記録の生徒と競わせたりして記録向上意欲をもたせる。 ・活動する際は安全確保の観点から、施設、設備の利用時のルールやマナーはもちろん事故やケガにつながらないように運動時の服装等も体育の授業時はもちろん運動部員にも徹底をは図る。 	概ね良好である。
	職員会議、体育委員会を通じて、職員および生徒に申し合わせ事項を徹底させる。	B				
	体育委員および各運動部員も運営に参加させながら、安全に配慮した計画のもと、充実した活動を目指す。	A				
環境整備	安全点検を年2回実施して集約を提示し、教職員の共通理解に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指示待ちの生徒が多い。ゴミを捨わない。清掃の方法や綺麗であるという状況を生徒に示し続けた。私物の整理を徹底したい。 ・廊下・階段の清掃を丁寧にした。 ・トイレの使用状況がよくない。 ・分別ゴミの出し方、毎月の担当クラスの処理に課題がある。 ・書籍や各クラブの道具が、ゴミとして多数捨てられる。 ・椅子を傾けて座る、2本脚の机に座る等して歪んでしまう。 ・整備委員による落ち葉掃き、ロッカー整備、諸行事での清掃等の活動はよくできている。 ・大掃除の時間が短いこと、その月の清掃分担箇所が少ない場合があること等の課題がある。 ・除草作業の方法を変えてみた。一昨年度までは、各クラスに年間を通しての除草区域を設定し、大掃除の時間に除草作業をした。除草の場所まで行くだけで時間がかかり、監督も十分にできず、成果が少ないと考えて、昨年度は配当しなかった。昨年度は、校舎外の清掃に当たるクラスと業務員さんで除草をした。今年度は大掃除の時に10クラスの生徒を教員1名があずかり、除草をしてもらった。この方法で年3回作業をしたが、教員1名で指導をすることには無理があり、次年度以降の継続は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素直な生徒が多く、教員が要求すればそのレベルにまで丁寧な清掃、私物の整理等をしてくれるものと期待できる。 ・ものを大切にすることや、処分してくれる人の立場に立つことなど、ホームルームや部活動等、機会を捉えて啓発したい。 ・大掃除、除草作業が円滑にできるよう、年度当初の清掃分担箇所等、可能な変更を行う。 ・教員が入れ替わってもできるように、除草作業は、旧来の「年2回各クラスで担任の指導の下」という形に戻しておくのがよいのではないかと。 	概ね良好である。
	校舎内外の整理整頓・点検整備を進める。	B				
	循環型の社会をめざし、リサイクル分別回収の活性化を図るとともにゴミの減量をめざす。	B				
	校内美化に関する情報を定期的に発信する。整備委員を中心としてロッカー周辺の清掃・整備を行う。	C				
	体育大会、文化祭などの学校行事において、ゴミの減量やリサイクル、清掃の徹底を図る。	B				
	自主的な清掃・美化活動を推進する。	C				
春・秋の校庭の落ち葉掃きを整備委員を中心に実施する。除草作業を適宜実施する。	B					
年2回の床面塗油を計画的に実施し、歴史のある校舎を大切にすることを育む。	B					

文化図書	読書活動を推進する。	文化図書委員の活動を中心として、生徒が読書に親しむ機会を設定する。具体的には、ライブラリーニュースの充実、本の展示広報の工夫を行う。	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、3回の文化講座の開催になった。留学生の報告等は別の分掌での開催となり昨年より2回減少したが、ピブリオバトルでは、大阪大学の学生との対戦も実現し、よりレベルが上がった。また、全国高等学校ピブリオバトル予選にも参加し上位成績を収めた。図書委員をはじめとした参加者にとって有意義な時間を過ごせたと思う。 ・委員会活動を「展示」と「ライブラリーニュース」に分担し、委員一人一人が役割と責任をよく果たしてくれた。 ・文化行事においては、司会進行や運営など生徒が中心になって主体的に取り組めた。 ・図書館を利用については、今年度の教室配置の影響か3年生が増え、1年生が少ない傾向だった。利用生徒も固定化している。生徒の読書離れが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員がさらに読書に興味をもち、アピールする場を増やし、委員会活動や文化行事に積極的に参加するよう、一層の工夫をする。 ・現状、本の購入予算が厳しく、生徒達が興味をもつ新しい本を購入できない状況である。金魚鉢通信やライブラリーニュースで本の魅力を発信しながら、蔵書を増やす方法を検討していく。 ・文化行事の企画運営に、更に生徒達が気軽に主体的に参加できるように、教員と委員とのより良いコミュニケーションを図る。 	概ね良好である。
	文化行事を企画運営する。	生徒が主体的に行動できる文化行事を企画運営する。読書オリエンテーション、芸術鑑賞会、新春小倉百人一首かるた大会、そして文化講座を生徒が運営し、参加できるように実施する。	A					
	育友会活動を充実・発展させる。	育友会関係の行事を精選し、本部役員を中心として育友会活動が円滑に運営できるようにする。	A	B	B			
同窓会との連絡・調整を円滑に進める。	昨年度末に常任理事から提案があった「持続可能な同窓会の実現を目指す（委員会）」が今年度、設置される予定である。今後、この委員会を通じて「これからの同窓会の在り方」について方向性を見いだしていく。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の同窓会総会において、基本計画（案）および会則変更（案）が承認され「人事選考委員会」が立ち上がり、会長・常任理事・理事の再選出に向けて動き出している。 ・今年の同窓会総会において、より充実した同窓会活動ができるような組織を提案できるようにしたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・各回期の理事について、再度連絡をとり各回期の中心になる理事を再選してもらう予定である。 ・最終的には、同窓会のすべての運営を今後組織される会務分掌（事務局、会計部、広報部）で会員が行えるようにしていきたい。 	概ね良好である。	
学校生活における安全の確保及び環境整備に努める。	定期的な巡視を行い、不良個所などを早期に発見するとともに、早急な修繕・補修などに努め、大震災を見据えた生徒の安全対策が図れるように努める。	B			B			B
光熱水費等学校管理経費の更なる節減に努める。	厳しい県財政の状況下において、一般管理経費などの節減は所属としての目標設定が不可欠である。平成30年度は、光熱水費を含めた管理経費の執行額を前年度以下にするように努める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの温度調整をこまめにするなど効率的な使用に努めることによりおおむね達成出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も光熱水費の効率的な使用に向けて職員や生徒に周知を行っていく。 	概ね良好である。	

第1学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「自分はなぜそうするのか、何をすべきなのか」を考えさせることで、自ら考え主体的に行動する習慣を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 「今、すべきこと」や「何をしなければならないか」を理解している生徒は多いが、「なぜ、そうしなければならないか」を考える生徒が少ない。常に、「なぜ、そうするのか」、「そのためには、どうすればいいのか」を考える習慣を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や学校行事など様々な活動において、教員側から一方的に目標ばかりを提示するのではなく、「目的は何か」を明確に示し、またそれを生徒自身に考えさせる機会を多くする。
	規範意識の向上	全職員の共通理解のもと、服装指導や遅刻指導を行い、集団生活における規範の重要性を理解させる。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初の緊張感が徐々に薄れ、服装のだらしないさや遅刻の回数が徐々に目立ってきている。特に、遅刻に関しては、同じ生徒が繰り返すことが多いため、遅刻者集会以外にも、家庭への連絡等を密にして協力をしてもらう必要がある。 情報モラルについては、特にスマートフォン等の使用において、ルールやマナー、生活習慣、人権教育など多くの面で指導が充分に行き届いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 一部の教員だけで指導していくのではなく、職員全員で共通理解をして、子どもたちとコミュニケーションを密にする。また、HR、授業、学校行事、部活動など、あらゆる場面で統一のかつ継続的に指導を続けていく。 SNS等の利用については、外部の専門家から話を聞く機会を設け、できるだけ早い時期に問題を提起し、正しい認識をもたせていく。また、時代状況を踏まえ教員側も議論を重ねて、その後も様々な角度から継続的に指導をしていく。
		学習活動のあらゆる機会を通して、社会におけるルールやマナー、特に情報モラルを身に付けさせる。	C			
	豊かな心の育成	人権学習HRなどを通して、様々なケースを伝えて考えさせ、他人の立場で物事を考えることができる人間を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 友人を思いやることのできる生徒が多いが、中には他人を不快にさせたり、時には傷つけたりするような言動も見受けられる。それらの中で、自分との関わりとして考えられるような態度を身に付けさせたい。 自分のことだけでなく、他人にも気を配り、認め合うことで、互いに高めあっていけるようなクラス（集団）を目指したい。 挨拶のできる生徒と自分からはできない生徒がいる。自然と挨拶が出てくるような雰囲気を作っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> HRや授業の中で、グループ活動を行ったり、その成果を発表したりする中で、周りの人に自分の意見を伝えたり、また違った立場の意見を聞いたりすることも大事である。また、一人でじっくりと考え、飾らない言葉で素直な感情と向き合う時間も大事である。その両方の機会をバランスよく与えられるような計画を立てる。 特定の部活動や特定の学級で、礼儀やマナーの指導をするのではなく、職員も含めて学校全体がそのような雰囲気になるように意識を高める。
		学校生活において、職員からも積極的に挨拶を仕掛け、挨拶の励行を推進し、活気のある学校生活が送れるようにする。	B			
	基礎・基本の定着と進路目標の設定	基礎・基本の重要性や有用性を授業で説明し、自主的な家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習への取組は、入学当初と比べて、徐々に自分のペースをつかんで、こつこつと努力している生徒が多い。しかし、家庭での時間の使い方はまだまだ不十分である。スマホ利用の頻度など、受験期を迎える前までに自己管理をきちんとできる体制を作っていきたい。 進路に関して、大学見学会に参加したり、エンパワメントプログラム等の講習にも積極的に参加している。これからは、必要な資料を集めたり学習の計画を自分で立てる事ができるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動等の事も考えながら、生徒がバランスのよい学習ができるよう、その時々で生徒の状況に応じた課題の与え方を考える。また、学習に悩みを抱える生徒に対して、こまめに声をかけ、個別指導や補習などきめ細かい指導を継続する。 自らの目標をきちんともたせ、その中で、進路関係の情報などは、紹介することだけでなく、どのような分野につながるかや、どんな能力を身に付けられるものなのか等、できるだけ具体的な提供の仕方に努める。
		進路HRを通して自らの進路目標を設定させ、大学見学会などへの参加を促し、進路選択への関心を高める。	A			
	グローバルに活躍する人材としての基礎力の育成	SGHに関する学校設定科目やSFUに対して主体的に取り組ませることを通して、他者と協働して課題を発見し、その中で自己の役割を的確に判断して行動する力を育てる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> SGHに関わる学校設定科目やSFUについては多くの生徒は真面目に取り組んでいる。しかし、目的がわからずただやらされているだけの生徒も少なくない。また、学校行事等で自らリーダーシップを発揮できる生徒がまだまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> SFUの担当者だけ取り組んでいくのではなく、教員全体で取り組みの目的や現状の把握などをこまめにチェックしていく。 学校生活を通して、生徒自らが課題を発見し、他者と協働しながら課題を定量的に分析し、課題の解決策を実行する態度を養えるよう、全職員で適切な指導を行う。

概ね良好である。

第2学年	自ら考え、行動することの習慣化	学習活動の様々な場面で「何をすべきか、何からすべきか、なぜそうするのか」を考えさせることで、常に自ら考え主体的に行動させる場面を設定する。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に正しくない行動を選択する生徒はほとんど見受けられないが、「優先順位」や「理由」を考えて主体的に行動できている生徒も少数である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習にしろ、行事などの活動にしろ、させられているだけの行動や、言われたとおりにしていれば安心という意識の改革が必要。「君はどうしたいんだ」「なぜそうなんだ」という、こちらからの問いかけ（コミュニケーション）の機会を増やしていく。 	概ね良好である。	
	規律ある生活習慣の育成	自己管理意識を高めさせ、遅刻が続く生徒には登校スタイルの改善を促す。また、頭髪・服装等の生活指導を学年全体で継続的に行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 研修旅行等で集合に遅れたり、規律を乱す生徒はほとんどいなかったが、日常の遅刻や服装の乱れは一部の生徒ではあるが、繰り返してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 気づいているのに指導をためらったり、素通りしてしまうということにならないように、職員全体で声かけをする取組を継続する。 		
	豊かな心の育成	ホームルームや学年集会等とおして、人権意識を常に確認し、自らの意識と向き合うような活動をより多く取り入れる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習については、講演会やHR活動などの機会を多く設けていただいた。その中身を自分のこととして捉えられる生徒も少しずつではあるが増えてきている。 何となく全体で盛り上がっている雰囲気はあるが、他人任せで終わってしまったり、逆に自己満足だけで周囲と協力ができない場面も少なからずある。 SFUの時間を利用して基礎学力の向上のための取組は継続できた。受験に備える意識は、全体的に遅く不十分なところが目立つ。 		<ul style="list-style-type: none"> 「差別はしてはいけない、人権意識を高めなければならない」ということと併せて、「自分も差別をしているかもしれない、これから差別意識が芽生えるかもしれない」ことも意識させ、「そのときに、自分の意識や相手とどう向き合うのか」ということを考えさせる機会を増やす。 行事やクラス活動などの様々な場面で、それをするものの意義や目標を明確にし、納得した上で活動できるように説明を怠らない。 受験までに学習できる時間が十分にはないことは明らかなので、今後の学習進度や対策を各教科から早めに伝え、進路に向けた取組に集中できる環境を整える。
		学校行事等を通して、集団生活における個人の役割を認識させ、自ら考え適切に判断し共に行動できる力の育成に努める。	B					
		進路指導部と連携して生徒に適切な情報を提供し、基礎学力の向上とキャリア教育を推進し、自らが進路を切り開く意欲を持たせる。	B					
グローバル・リーダーの育成	SGH学校設定科目や各科目の学習をとおして、表現の派手さばかりにこだわるのではなく自らの意見や考えを論理的に説明し、相手の立場を尊重して討論する思考力、判断力、表現力を育成することで、グローバル人材としての資質を養う。	C	B	A	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの発表や交流を通して、表現方法のスキルなどは身につけてきている。逆に、論理的に思考を組み立て説明できる生徒は少なく、それを取り繕うために形だけ派手に見せているという結果も多い。 研修旅行では、積極的に学校交流や文化交流を選択する生徒も多々いたが、「意見」をしっかりとっているかについては少し弱いところがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学習などの取り組みが、将来のことにとどのようにつながっているのかを説明するとともに、生徒のニーズに合わせた課題の設定も必要。目標とする進路の系統に繋がるような工夫もする。 学習活動を始め様々な場面で、留学生たちとコミュニケーションがとれる機会を増やす。 		
	研修旅行を通して、諸外国の多様な文化を理解させ、海外の高校生・大学生と意見交換できるコミュニケーション力を身に付けさせる。	A						
第3学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「自分はなぜそうするのか、何をすべきなのか」を考えさせることで、常に自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。	C	C	<ul style="list-style-type: none"> 決められたことや指示されたことは、ある程度きちんとこなすことができるが、自分は何をすべきかを一から考えて行動できる生徒を育てる工夫が少し不足していた。常に自分で考えて行動する習慣を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のあらゆる場面で（授業やHRはもちろん、部活動、学校行事、清掃活動など）、教員側から指示を出すのではなく、生徒に「なぜそうするのか」、「自分は何をすべきか」ということを考えさせる機会をできるだけ多く作ることで、考えて行動する習慣を身に付けさせる。 		
	自律的な生活態度の育成	生徒の自己管理意識を高め、校則を遵守させるとともに、社会のルールやマナーを身に付けさせる。	B	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒がルールを守り、各行事に積極的に取り組むことができた。 部活動などでは3年生としてリーダーシップを発揮できた。 精神的にしんどくなっている友人を思いやる様子も多く見受けられた。 一部には規範意識に欠ける生徒や自分勝手な行動をとる生徒もあり、時には心ない言動で他人を不快にさせるようなこともあって、全ての生徒を十分に指導しきれたとはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任や教科担当あるいは部活動顧問だけで、その場の全ての生徒に目を配り、細やかな指導をするのには限界がある。 生徒の内面については、かなり深く関わらないと理解できない場合が多い。今以上にもっと教員間の情報共有や共通理解を図り、特に心配な生徒には多くの先生方で連携して関わっていけるような工夫が必要である。学校全体で一貫した指導方針も必要。教師からの一方的な指導に終わらず、生徒の心に響くような働きかけができるよう、まず生徒と教員の信頼関係をしっかりと構築していくことが大切。 	
		ホームルーム等とおして、人権尊重の精神を深め、他人を思いやる豊かな心を育成する。	A					
	学校行事等とおして、集団生活における個人の役割を認識させ、主体性と責任感をもって適切に行動できる生徒を育てる。	B						

第3学年	進路実現に向けての学力の向上	生徒の実態に合ったよりよい授業を工夫することで、進路実現に資する学力の伸長を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 特に夏休み以降は進路実現に向けて意欲的に学習に取り組む様子が見受けられた。ただ、自分に必要な学習方法をしっかりと考え、主体的に学習計画を立てることができない生徒が多く、塾や予備校での学習に頼り切りの生徒もいた。指示されたとおりにやるだけでなく、自分で考えて学習を進められるような習慣を身につけさせたい。担任を中心に何度も面談を重ね、個々の生徒を尊重した指導を行うことで、自己の現状を見つめ、将来を考えさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが自ら学習方法や計画を考えて実行していけるような指導を入学当初から各教科できちんと行い、主体的な学習習慣をいち早く身につけさせる。入学年度によって変化する生徒たちの実態に応じて、授業や課題等の内容を工夫・調整する。習熟度別の授業や講習を設定する。放課後に静かに落ち着いて自主学習をしたり、教員に質問や相談に行きやすい環境を整える。特に放課後は、生徒の個別指導に時間を当てたい。そのための教員の時間を確保するには、会議や様々な業務のバランス等も見直す必要がある。 	概ね良好である。
		生徒のキャリア意識を高めることで、主体的で、継続的な学習態度を育成する。	B				
		きめ細かな進路相談を実施することで、生徒個々に応じた自己実現と第一志望の目標達成を目指す。	A				
	グローバル・リーダーの育成	生徒自身が未来創造会議の企画・運営を行うことで、企画力、実行力、調整力やコミュニケーション力を養い、自分の役割に対する責任感をもたせることでグローバル・リーダーに必要な使命感を培う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通して、SGHに関わる様々な活動に積極的に参加し、成果を上げることができた。未来創造会議では、研究発表はもちろん司会進行などの運営面でも生徒中心で実施することができ、運営指導委員の先生方をはじめ、外部からも概ね高い評価をいただいた。 課題研究においては、高い意識をもって主体的に取り組む生徒と、研究への意識が低く、内容の薄い研究に終わってしまった生徒に分かれた。全ての生徒に意欲的に取り組ませるには、これまでと異なる工夫が必要と思われる。 国公立大学や私立大学の推薦入試やAO入試の出願の志望理由書や推薦書において、GTECや課題研究を高校時代の取組として活用することもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に各教科で研究テーマにつながるような内容に触れたり、それに関わる基礎知識をどんどん学ばせ、興味・関心を持って自己の進路と関連づけて、もっと自由に研究テーマを設定できるようにする。 大学入試において、GTECや課題研究の成果が活かされることを早い時期に明確に示し、自分の希望する進路とも関わるような研究内容に、積極的に取り組めるようにする。 課題研究で協働する中で、個々の役割を明確にすることで、すべての生徒が主体的に取り組めるようにする。学校生活の様々な場面で、リーダーとして活躍できる場をもっと多く設定する。 	
課題研究について、グローバルな視点で発表・提言を実施することで、多様な角度の観点から物事をとらえ、また様々な価値観の人たちと協働することで、グローバル・リーダーとしての資質を養う。	C						
国語	国語文化を広く深く理解し、社会生活を営む上で必要な国語力を養成する。	予習・復習の習慣化を図り、生徒の自主的な学習態度を養うとともに、語彙・文法等の基本的な知識を確実に習得させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 予習の習慣化については定着してきたが、復習の習慣を付ける取組や自主的な学習態度を養う取組が十分にできなかった。 ペアやグループワークで話し合いや学び合いの時間を多く設けたが、正しい答えを教えてもらう姿勢の生徒が多いことや知識の不十分さから、目標が「活動すること」に終始し、内容の掘り下げが不十分であった。 個に応じた指導の必要性を感じる場面がある。 担当者間の打ち合わせはその都度行うことができた。「学びのナビゲーター」を活用して進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 予習の重要性を、できたと実感させる授業の展開により自覚させる。 小テストや予習を活かして基礎学力を充実させる 検査や模試のやり直しを共通の時間を設けて行う。 学ぶ意義を常に確認させ、主体的に学習する姿勢を身に付けさせる指導を継続する。 課外に個別指導を行う。 担当者の共通理解を一層深め、課題を共有する方法を工夫する。 	概ね良好である。
		辞書・参考書・問題集を活用しながら、指導法に創意工夫を凝らし、生徒の論理的な思考力、読解力、表現力の伸長を図る。	B				
		言語活動を通じて、自分と異なる立場にある相手に対し、言葉で自らの意見を発信したり、コミュニケーションを取ったりして、幅広い視野に立って、協力しながら問題解決に導いていく力を身に付けさせる。	B				
		「学びのナビゲーター」を活用し、教材に応じた学習のポイントや、手段目標を明確にするため、担当者間の打ち合わせを密に行う。	A				

地歴	日本史、世界史、地理への認識と理解を深め、主体的に生きる自覚と資質を養う。	歴史や地理に関心をもたせ、幅広い知識を身に付けさせる。1年生では学校設定科目「現代へのあゆみ」で、日本史、世界史の近現代史の基礎を総合的に学習する。また、情報科とも連携しながら、自ら主体的に課題を設定し、その解決に取り組み、探究的な活動や発表を行うことで問題解決能力を養い、2/3年次における日本史B・世界史B・地理Bといった科目のに対する学習意欲を高め、より発展的な学習につなげる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 現代へのあゆみは進行計画や内容を見直し、現代の諸問題や奈良県の諸課題と関連付けて学習させた。また地域の歴史や地理を取り上げることで課題研究における動機付けができ、また、課題研究において、レポートの様式などを改良し、プレゼン内容の充実傾向が見られた。 授業内におけるグループワークは、グループ間の格差がみられたが、適切なアドバイスをすることで、内容だけではなく分かりやすい説明を試みようとする姿勢が見られた。 B科目においては、内容の精選等をはかり、おおむね目標を達成することができたが、より主体的な学習が進められるような教材の作成が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 45分授業に対応した教材の精選、授業の展開、アクティブラーニング型授業の実践について、さらなる研修と、情報の共有を行っていく。 担当者や科目・教科間の連携を密にし、課題設定や教材の工夫、指導方法や評価の仕方について提示・統一化していく。 内容の精選に努め演習の時間を確保し、入試に対応できる学力を養成する方法を工夫していく。 視聴覚教材や地図・統計等を有効に活用し、地域や自らの生活と授業内容との関連性を明らかにし、興味・関心を持って教科の学習に取り組めるよう工夫する。 	
		史料や図表、地図、統計を有効に活用し、歴史事項や地理的事象の理解を深める。	B				
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。	B				
公民	現代社会の特質や課題を把握させ、民主社会の一員としての自己を探究させる。	2年生では学校設定科目「現代の課題」で、グローバルな視点から政治、経済、社会について学習する。また情報科や奈良TIMEの活動と連携しながら、自ら主体的に課題を設定し、その解決に取り組み、探究的な活動や発表を行うことで問題解決能力を養うとともに、3年次に学ぶ政治・経済に対する学習意欲を高め、より発展的な学習につなげる。。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 現代の課題では、奈良TIMEとの連携を通して、課題研究の動機付けを行い、多角的な視点で課題研究に取り組ませることができた。 時事問題を授業に活用することで、政治や経済に関心を持つ生徒が増えた。 哲学的な思考を行うための各先人の思考内容を伝え理解させることはできたが、生徒自ら深く考えるところまでには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者や科目・教科間の連携を密にし、課題設定や教材の工夫、指導方法や評価の仕方について提示・統一化していく。 社会事象に関する幅広い好奇心をもつことが公民の学力向上につながることを早い段階で自覚させるため、新聞・ニュースなどの時事問題を有効に活用する。また、内容の精選に努めながら演習の時間も確保し、入試に対応できる学力を養成する方法を工夫していく。 レポート作成や発表学習を通じて、自ら考えて取り組む姿勢を養う。 先人の思考について資料等を用いて図示しながら日常生活とシンクロさせるような授業展開を行っていく。 	概ね良好である。
		日本や世界の哲学・宗教を学ぶことにより、主体的な自己の在り方、生き方という倫理的課題を探究させる。	B				
		日本や世界の政治・経済を学ぶことにより、社会の構造を理解させ、時事問題にも関心をもたせる。	B				
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。	B				

数学	数学における基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、様々な事象を数学的に考察し処理する能力を養う。	教員間で互いに授業を公開することにより、アクティブラーニングなど効果的な指導方法についての研修を計画的に実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も若手の教員を中心に授業の公開を行うことができた。その他、校外の自主研修等に積極的に参加し、授業内容の向上に努めた。今後の課題としては各学年等で積極的に授業を公開していくことである。 大入学共通テストの試行調査問題の分析を行い、重点的に指導すべき内容等を確認することができた。今後の課題としては、より一層、情報収集に努めることである。 各科目の担当者間で、授業の内容について、打ち合わせ等を行い、生徒個々の進路にあった授業を進めることができた。今後の課題は、大学入試共通テストに対応した指導をしていくことである。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教員の研修への参加を推進し、効果的な授業方法を研究して教員相互に共有したい。また、授業方法だけでなく観点別評価等の研修会にも積極的に参加していきたい。 共通テストで求められる論理的思考力や読解力は、短期間で身に付くものではないので、早い段階から、ただ問題をこなすだけではなく「なぜ?」「ほかには?」と考えさせることを意識しながら、授業を行ってほしい。 学年の教科担当で、各単元ごとに打ち合わせ等を積極的に行い、授業の進度や生徒個々の進路にあった授業展開など、生徒の実態に応じた教材選びや内容の精選を行ってほしい。 	概ね良好である。	
		大入学共通テストでは、主体的な思考力が問われるため、より柔軟な思考力や考察力が身に付くような授業展開・考査問題を検討する。	B					
		科目担当者間で授業内容などの打ち合わせを定期的に行い、観点別評価を意識した授業計画、考査作成を推進する。	A					
理科	自然への関心・意欲を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、思考力・判断力を身に付ける。	中学校での既習内容を踏まえ、教材・指導法の工夫を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、理型で月曜日7限授業を実施し、授業の進度を確保しつつ授業内容や教授方法の改善に努めた。その結果、基本的な内容の理解度を高めることができた。しかし、それでも授業時間数的には厳しく、演習の時間が十分にとれなかったため、定着がやや不十分であった。また、実験観察（特に生徒実験）をあまり行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な授業時間数が不足しており（特に理型）、授業の進度を確保しながら内容を理解・定着させることに苦労してきた。来年度より理科の単位数が増えるので、これまでと比べると実験観察の時間をある程度確保できるのではないかとと思われる。生徒が興味・関心をもって主体的に学び、思考力や判断力を身に付けていけるような授業を目指したい。 	概ね良好である。	
		ノートの提出や小テスト等をとおして、学習内容の理解度を確かめる。	B					
		観察・実験等を実施して、結果の発表や報告書の作成等を行い、科学的に考察する能力を育成する。	C					
		観察・実験等をとおして、事物現象を確かめ、自然の諸法則について理解させる。	B					
保健体育	運動技能の向上と生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育成する。	個の能力に応じて運動技能を高めるとともに、自発的、自主的かつ安全に運動を行い、公正、協力、責任、参画等の態度を育成する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた練習方法を学ぶことにより、自発的・自主的に運動に参加する生徒が増えている。グループのリーダーの育成が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習段階に応じたリーダーの育成について、技術・知識とともに、言語活動を充実させグループの運営を主体的に行わせたい。 	概ね良好である。	
		心と体を一体とし、健康の保持増進のための実践力を身に付けさせる。	B		<ul style="list-style-type: none"> 精神の健康・体の健康について学び、知識と実践力を身に付けさせている。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティブラーニングを検証し、より主体的な学びの授業を展開させたい。 		
		生涯を通じて自らの健康を適切に管理する資質や能力を育成する。	自らの健康を保持増進できる能力と自他の安全に配慮できる能力を育成するとともに、家庭及び社会生活での健康、安全の確保について理解させる。		B	<ul style="list-style-type: none"> 健康を、身体・精神・社会的な側面から分析させ、正しい知識を身に付けさせている。学校・家庭・社会の生活での実践力を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> スポーツテスト結果の分析等をさせ、日々の生活の中での健康を考えさせたい。
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、豊かな情操を養う。	五感を鍛え、様々な用具・楽器の特性・技法を自主的に学ぶことにより、豊かな表現力の向上を図る。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の関心や知識も深まり、自ら考えて表現に臨もうとする生徒が増えてきた。授業を楽しむ姿の中にも、表現力と集中力が養われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ知識や技術を、生徒個々の表現に生かせるように、教材研究の幅をさらに広げる。より具体的な作例を提示するなど指導方法を工夫する。 	概ね良好である。	
		芸術作品の鑑賞をとおして、その特徴や作者等について理解を深め創作活動に生かす。	B		<ul style="list-style-type: none"> 作品や楽曲の鑑賞を通して、作者の意図や作風、人間性、歴史的背景などに触れ、芸術作品をより深く味わい理解した。主体的に学ぶ姿勢が培われたことによって、創作活動や表現活動に対するモチベーションも上がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞教材の時間設定を検討するとともに、生徒が興味や関心をもち意欲的に取り組んでいけるように配布資料等も工夫する。生徒にとって、より主体的な活動へとつながるように生活の中での芸術の働きを伝えるなど、工夫を加える。 		
		授業公開や教科の研究会への参加を積極的に行い、指導力の向上を図り、授業の質を高める。	B		<ul style="list-style-type: none"> 教科研究会への参加、展覧会や演奏会の鑑賞、また創作活動などを行い、授業の質を高める努力をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 他校の先生方との意見交換を重ねながら、さらに授業の質を追求していく。そのために、研修会への参加だけでなくとどまらず、県や市町村の講座へ参加するなど、より広い視野に立って情報収集を行う。 		

英語	学習の内容が生徒に定着するように、基礎・基本の徹底を図り、学んだことを用いて表現する力を育む。	観点別評価の研究を深め、授業の方法や評価において実践する。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価については、各学年担当の取組となっており、教科として課題を共有することができなかった。 ・生徒に対して目的をもった指導を行うため、各学年担当で打ち合わせをできる限り実施し、一定の方向性を確認し指導方針を定めることができた。 ・グローバル英語において、1年生では分割授業を実施することできめ細やかな指導を行うとともに、普段の授業では扱いにくい発信活動を中心にした指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちに身に付けさせたい能力やスキルを設定し、その実現を図るためにはどのような観点から指導していくべきかを逆算して、各観点及び指導方法を定められるよう取り組む。 ・学年内の指導は打ち合わせを行うことである程度一定のものになっているが、学年間での指導にはばらつきがあるため、英語科として3年間を通した指導方針を策定していく必要がある。 ・来年度の教育課程の変更に伴い、グローバル英語を含めた各科目の授業内容に関して、大学入試改革を踏まえて、特に発信活動において一定の方向性を共有する。 	概ね良好である。
		各学年の目標や指導内容、指導方法、使用教材を吟味・精選し、目的をもった指導を行う。	A				
		生徒に家庭学習の方法について具体的方法を指導する。また生徒の個々の実態に応じて、補充指導等を行う。	B				
		各教員が授業力の向上を目指し、互いの授業を公開し合い研鑽をつむ。	B				
		学校設定科目「グローバル英語」において、発信活動における各学年の指導目標を見据え、生徒たちの活動がより充実したものになるよう、指導の工夫をする。	B				
家庭	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の向上に主体的に取り組む能力と態度を育てる。	実習を効果的に取り入れる工夫をし、家庭生活に必要な知識・技術を具体的に理解させる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとどの単元においても実習をすることができた。実習を通して、実践的な力が身に付くとともに、他者と関わり、協力しながら取り組んでいく態度を育てることができた。来年度45分授業になることで時間的にさらに厳しくなると思われる。 ・ホームプロジェクトについて、展示だけでなく、クラス内で発表の機会を設け、生徒同士が相互評価をすることができた。 ・家庭クラブ活動については、役員生徒だけでなく、有志の生徒も加わり、活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より効果的なものとなるように、実習内容の見直し、実施方法の工夫をする。また、生徒に対して実習の目的・目標を明確にし、評価へとつなげていけるようにする。 ・ホームプロジェクトについて、生徒が自ら計画し実践できるように内容を工夫する。 ・家庭クラブ活動においては、次年度の生徒へ活動が繋がっていくように、2年生の生徒にも活動への積極的な参加を呼びかけ、新入生とのつながりをもたせる。 	概ね良好である。
		ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動により、家庭や学校、地域社会の生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。	B				
		教科の研究会や研修会に積極的に参加し、指導力の向上を図る。	B				
情報	情報の特徴と、情報化が社会に及ぼす影響を理解する。自主的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	他教科と連携を図りながら、情報の収集・処理・発信などの情報活用能力や、プレゼンテーション能力を身に付けさせる。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・著作権の侵害をしないための注意点について啓発を行った。 ・1年：Excel、Word、PowerPointの基本操作を学習した。班別で情報モラルに関するテーマでレポートを作成し、パワーポイントにまとめて発表した。デジタル化に関する内容では2進数、16進数について学習できた。 ・2年：海外研修に関する事前調べ学習を実施した。スクラッチを利用し、アルゴリズムを学習した。 ・1、2年共に3学期は研究発表の準備を行った。他教科との連携が十分にできなかったのが課題である。 ・担当者間で課題や授業展開についての情報交換を行ったが、研究を深めることができた。 ・パワーポイントで要点を示しながら授業を進めたが、生徒が考え、実習に取り組める教材を開発する必要を感じた。研究授業を行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携をし、年間計画を立てることにより、より一層効果的に、スムーズな活動が行えるようにする。 ・情報端末活用の際のモラルやマナーなどについて、研修をすすめ、注意点をまとめ、共有する。特にLINEやTwitterなど生徒使用度の高いSNSについて研修を行う。生徒が意欲的に学習に取り組む教材を開発する。外部講師の招聘も検討する。 	概ね良好である。
		情報モラルに関する指導を徹底し、様々な場面で適切に対応できるようにする。	B				
		学習内容を十分理解させるため、適切な教材や実習課題の研究、開発を行う。	B				
		研究授業を各人年1回実施し、授業展開や指導方法の向上を図る。	C				